

1. 核兵器・原爆

2006. 2

●最初の悲劇

広島（1945年8月6日午前8時15分）長崎（1945年8月9日午前11時2分）に原子爆弾が投下、爆心地から2キロ以内が一瞬のうちに熱線や爆風で破壊され焦土となった。20万人以上が1週間以内に死亡、60万人以上が被爆、白血病やガン、胎児への影響は今も続いている。

●東京に1メガトン（広島の約80倍）の原爆が投下されれば……

- 爆心地から5キロ圏で300万人全滅、20キロ圏で1000万人がほぼ全滅
- 世界の大都市のほとんどは1メガトン級で全滅
- さらに放射性降下物の影響は数百キロに及び、被害ははかり知れない
- 原爆が破壊されると被害はさらに大きくなり、被害ははかり知れない

●核兵器の現状

- 核保有数は米ソの冷戦時には最大5万発（総計2万5千メガトン）
- 現在は削減中だが、1万発以上存在（総計1万メガトン以上）
1メガトンで1000万人を殺傷できるので1万メガトンは1000億人、つまり全人類（60億人）の16倍を殺傷することができる。
- 現在の核兵器は多弾頭になっており、同時に100カ所を核攻撃できる。そして1発発射されれば、迎撃、自動報復システムなどの対抗手段があり、誤射・誤爆であっても全面核戦争に突入する可能性は十分ある。

●核戦争の可能性

- 飢餓、貧困、経済格差、環境問題、イデオロギーや宗教の対立、テロなど、どの問題でも核が使われる可能性がある
- 一発の核使用でも自動報復装置などで全面核戦争になる可能性は極めて大きい
- 核兵器が平和を維持するという考えは非現実的
核保有国が核を使わないまま降伏することはいえない
- 第三次世界大戦では確実に人類は絶滅する
- 地球上の全生物の生存のために、核兵器廃絶は絶対条件

※これは1970年から2000年までに行われた膨大な核兵器に関する実験や研究によって導き出された結果でもあり、米ソの科学者や専門家の一致した意見である。

●「核の冬」について

核戦争で世界の核兵器の1%（100メガトン、広島原爆の5千倍）が使われたならば、世界人口の半数（約30億人）が死亡

- 爆風で巻き上げられた膨大な塵が太陽光を遮断、太陽光は1/100となる
これが「核の冬」と呼ばれ、温度が急速に下がる
- 全世界が氷点下になり農業は壊滅、生物の大部分が滅びる
- 数年後、太陽光が回復するが、オゾン層が破壊されており、生き残っていた陸上生物（微生物やコケや地衣類など）も全滅

⇒ 核兵器がある限り、真の平和はありえない

●もう一つの核兵器は原発！

- 大事故により100キロ圏は壊滅、数百万人が死亡、核兵器に匹敵する
- 米104、仏59、日本58、ロシア37、英35など世界で約500基
- 原発は人為的ミス、大地震、コンピュータの誤動作でも大事故の可能性あり
※福井県の原発一基で大規模な放射能漏れが起きた場合、

被害額は460兆円（日本のGDPに相当）死者は41万人（京産大講師試算）

- 先進国が全廃方向の中、日本とアメリカだけが逆行して増設中、日本は核大国！
- 原発は全廃できる！（他の先進国が全廃する理由）

①小型、分散型、高効率のエネルギーに転換

廃熱を地域暖房やビル暖房に利用すれば熱効率、発電効率が2倍にアップ

⇒ 効率が2倍アップすれば発電所の数は半分で済む

※日本は大型で効率の悪いものを人口の少ない地域に作り、遠方の都会に送電するので効率も悪く、熱の利用もできない

②電力ピーク（夏の昼間など）の電気代を上げることでピークを抑える努力

フランスは1.1倍！日本ではこのような努力をせず発電所を増やすだけ

③DSM（電力会社が需要者に働きかけ電力の効率を上げるなどで節電の努力）

④電力業界を自由化して安全でクリーンな電力開発の競争をさせる

風力、水力、波力、海洋、太陽、燃料電池など多様な電源開発の推進

⇒ 原発がある限り、真の平和はありえない

●平和な社会の実現に向けて

- 私たちが危険を認識し、世界の動きを理解する
- 私たちの意思表示により、各都市が非核宣言をし、日本が真の非核宣言をする
- 世界市民ネットワーク『地球市民連合』を作り、全人類の願いに反する国に対して、世界規模の不売などの意思表示により、その国を動かす

⇒ 『地球市民連合』の実現により核廃絶、真の平和の実現